

様式 1

研究報告書（平成 26 年度）

提出者 入江恵子

提出年月日 平成 27 年 3 月 11 日

**【本ユニットにおける研究テーマ】**

和文 身体への医療的介入による社会的効果の研究  
——DSD（性分化疾患）当事者の自発的取り組みの国際比較

英文 Medical Intervention to Body:  
Comparative Study of DSD(Disorders of Sex Development) Movements

**【研究のねらいと目的】**（600 字程度）

性分化疾患に共通して経験される医療の介入による逸脱増幅は、当事者の生活世界にどのように影響しているのであろうか。本研究は特に性分化疾患の当事者のエイジングの過程に着目し、そのライフコースを明らかにしようとするものである。

本研究では、逸脱論の視点を取り込むことにより、通常のライフコース研究では明らかにできない、「逸脱の増幅」を中心として構築される性分化疾患当事者に特有の共通経験を明らかにする。具体的には、医療によってその身体状態や存在自体がさらに「逸脱」したものとして扱われるという経験が、当事者のこれまでの人生の様々な局面においてどのような影響を与えてきたのかを明らかにする。また同時に、今後の将来への展望など、当事者の人生のとらえ方を明らかにする。

これまでの研究から、当事者らは、一方的に医療（医療知）によってその身体の自律を奪われているにとどまらず、変革を求めて医療へ働きかけを行っていることが明らかになった。本研究では、当事者らによる自発的な取り組みのなかでも、特に「ヨガ」（ヨーガとも）を通じた自律の回復の過程を明らかにする。そのためにまずは日本におけるヨガの位置づけを明らかにする。それにより、当事者らのライフコースにおける「逸脱する身体」の経験のダイナミクスを明らかにすることができる。

**【研究業績】** 学会報告・論文など

<学会報告>

「日本における『現代』ヨガのジェンダー化——その誕生と社会的背景」日本スポーツとジェンダー学会 第 13 回大会、2014 年 6 月 29 日、於中京大学

<講演>

「これからの男女共同参画——近江八幡の現状と課題」近江八幡市馬淵学区まちづくり協議会、2015 年 2 月 19 日、於馬淵学区まちづくり協議会

<論文>

「女性化される現代ヨガ——日本におけるブームとその変遷」、スポーツとジェンダー研究、Vol.13、印刷中

**【成果の概要】**（800字程度）

今年度は、性分化疾患の当事者による自発的な取り組みのひとつである「ヨガ」（ヨーガとも）に焦点を当てた。まずは日本におけるヨガの位置づけを明らかにするために、これまでの歴史とヨガをめぐる3つの転換期の存在を明らかにした。それらは、3つのヨガブームによって理解することができるものである。元来、男性のものであったヨガだが、日本ではオウム真理教の事件の影響により、ヨガ自体がスティグマ化されてしまった。マイナスイメージを払しょくするために、「女性」「癒し」といった2000年代に流行していたスピリチュアルブームと、その担い手である女性をターゲットとして市場化したため、今日広く知られる「現代ヨガ」は女性によって実践されるようになったのである。

この結果は日本スポーツとジェンダー学会において発表した。分科会の企画から参加し、当日はヨガ講師を招へいし、学会参加者と共にヨガの実践を伴った会に発展させた。今日流行しているヨガを扱った会であったこともあり、出版社の出席もあり、手ごたえを感じることができた。この内容についてはスポーツとジェンダー研究 vol.13 において論文として掲載が決定しており、現在印刷中である。

今年度より、近江八幡市の男女共同参画審議会の会長に就任し、同市の施策の見直しと提言を委員会を通じて行っている。近江八幡の審議会は他の自治体と比較しても活動が活発であり、住民や市役所の人事部、自治会などへ聞き取り調査を行っている。今年度は2年計画の節目の年でもあり、これまでの調査結果と今後の展望について、2月19日に同時の馬淵地区の協議会において講演を行った。

**【通信欄】**